

2018～2022年度 北海道教育推進計画基本理念

自立

自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自ら夢に挑戦し、実現していく人を育む

共生

ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む

令和3年度 日高管内教育推進の重点 ※R4年度未定

～全ての子供のよさや可能性を引き出し、持続可能で豊かな地域社会の創り手を育む日高教育の創造～

重点1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- 子供の特性や学習状況等に応じた「個別最適な学び」の充実
- 子供一人一人の考えを広げ、深める「協働的な学び」の充実
- これまでの実践とICTとの最適な組合せの実現

重点2 学校マネジメントの強化による「働き方改革」の推進

- 全員参画による「働き方改革」に向けた体制整備の推進
- 連携と分担による学校マネジメントの実現
- 地域とともにある学校への転換

重点3 新しい時代の日高教育を創り出す教職員の育成

- キャリアステージに応じた資質・能力の育成
- 新たな課題に対応する力の向上
- 多様な人材等と連携・分担して課題解決に取り組む力の向上

令和3年度 新ひだか町学校教育の目標と重点 R4年度未定

新ひだか町教育の基本目標

町の将来を支える心豊かな人づくり

子供たちが豊かな心を持って学ぶことができるよう、よりよい教育環境づくりを進めるとともに、地域文化の保存・伝承や、生涯学習機会の確保・充実に努めながら、地域を支える人づくりを進めます。

学校教育推進の重点

未来に生きる力の育成

- 主体的・対話的で深い学びの展開（町の学びのスタンダード、教育のデジタル化対応）
- 指導の改善に生きる評価の実施（個の学びの検証改善、資質・能力に基づく目標設定、子供と教師による授業評価）
- 家庭学習と補充的学習の充実
- 外国語（英語）教育の充実
- キャリア教育の充実（人材活用）

豊かな心と健やかな体の育成

- 「特別の教科 道徳」（道徳科）の充実（授業実践と評価）
- 望ましい家庭生活習慣の確立
- 体力・運動能力向上の取組の充実
- 特別支援教育の充実
- 健康安全教育の充実（新しい生活様式に基づく感染対策、食育）
- いじめ等問題行動への取組の充実
- 不登校の解消に向けた取組の充実

学校力・教師力の向上

- 学校組織の活性化（研究指定事業の取組）
- カリキュラム・マネジメントの充実（教科横断的視点、新学習指導要領に基づく実践、教育のデジタル化の推進）
- 学校間・地域間連携（学校間連携）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底 ※「適応指導教室」新設検討

※「主体的・対話的で深い学び」のある学習指導の研究実践 ※教育のデジタル化に対応した研究実践

※地域の教育資源の教材化による体験的な学習指導の研究実践

令和4年度前期 学校経営方針

新ひだか町立高静小学校長 鈴木 晋作

「北海道の教育理念」、「日高管内教育推進の重点」、「新ひだか町学校教育目標」を踏まえ、本校の教育目標の具現化を図ります。そして、『一人一人の子供たちの幸せのために～自立と共生～』という基本理念のもと、予測不能な変化の激しい未来を、たくましく生き抜く力の素地を、学校・家庭・地域が一丸となって育成します。また、職員の働き方を見直し、働きがいがあり、働きやすい学校づくりを行います。さらに、「学校の新しい生活様式」に基づく新型コロナウイルス感染予防対策の徹底と教育課程の工夫による学びの保障を図ります。

基本理念 一人一人の子供たちの幸せのために ～自立と共生～

- それは子供のためになっているか、そこに教育はあるか
- 働きがいがあるか、働きやすいか

- ※教師の道を志した新採用の頃の気持ちを忘れてくはない。何のために教師になったのか。
- ※真の動機付けは内発的であるべきです。「自分の指導は子供のためになっていたのか」「もっと違うやり方がないか」「さらによくする方法はないか」「学校や同僚のために自分にできることはないか」と内へ矢印を向けたい。その謙虚な姿勢が教師を成長させる。生き生きと常に学び続ける姿勢が教師を成長させる。教師の成長は、必ず子供たちの成長につながる。
- ※子供に寄り添い、ありのままを受け止めることから教育は始まる。一人一人にしっかり目を向けて、その子その子の持ち味が大切にされる「みんなちがって みんないい」の姿勢を大切にしたい。
- ※「私たちは、子供の未来にふれている。そして、世界の未来にふれている。」そのことに誇りと自覚をもち、一人一人の子供たちの幸せを願い、教職員同士の協力体制を確立し、職務にあたりたい。
- ※自ら考え行動し、多様な仲間と共に新しい時代を創る子供たち。新学習指導要領や北海道教育基本理念を踏まえ、「自立と共生」をキーワードにした教育活動を全職員が一枚岩となって展開したい。

学校教育目標

よく考え進んで学ぶ子供

- 他人の意見をよく聞き、自分の考えと比べながら、進んで発表し学習に取り組むことができる。
- 文化遺産や歴史を大切に受け継ぎつつ、意欲的に新しいものを見つけ作り出していくことができる。
- 問題意識を持ち、よく考え判断し、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

明るく心の豊かな子供

- 相手を大切にし、多様な考えを認め尊重することができる。
- きまりを守り、よりよい学校生活を考え行動することができる。
- 相手のことを考え、気持ちのよい挨拶やふさわしい言葉遣いができる。

じょうぶでたくましい子供

- 生命の大切さを自覚し、常に安全に気を付けて明るく生活することができる。
- 協力して最後までねばり強く物事をやり遂げることができる。
- 進んで体を動かし、健康を維持することができる。

目標とする子供の姿

各教科等の目標（資質・能力）を確実に身に付けた子
～各教科等の見方・考え方をはたらかせながら～

教科等横断的な資質・能力

※令和3年度末に全職員の意見を基に見直し、新たに設定しました。

【知識・技能】

A 言語力（話す、聞く、読む、書く）

【思考力・判断力・表現力】

B 整理して表現する力

【学びに向かう力・人間性】

C 自己調整力 **重点**

D 相手を尊重する力

目標とする学校の姿

E 安心・安全できれいな学校 **重点**

※3年前の事故を受けた交通安全指導と新型コロナ感染予防対策の徹底を意識し、重点に設定。

F 笑顔があふれ、明るいあいさつが交わされる学校

G 保護者や地域と共に子供を育てる学校

目標とする教師の姿

H 自ら研修に励み、授業改善に取り組む教師 **重点**

※新学習指導要領に基づく授業改善をさらに充実させるために、重点に設定。

I 子供に寄り添い、共に成長する教師

J 働き方を意識し、組織的に取り組む教師

重点キーワード

「自己調整力」

「安心・安全」

「授業改善」

方策1 確かな学力の育成プラン 最重点プラン

実態・課題

- 【R3】『全国学力調査』平均正答率（国48%、算56%）、「読解力」「条件に応じ説明する力」「必要な情報を見つける力」「数学的に説明する力」「漢字の読み書き」「図形」に課題が見られた。下位層50%。
- 【R3前期】算数単元テスト平均点（4年生77点、5年生75点、6年生77点）
- 【R3】『CRT』2観点（知・技と思・判・表）得点率（1年国64%算70%、2年国66%算62%、3年国51%算51%理61%、4年国64%算53%理66%、5年国64%算54%理67%英58%、6年国54%算53%理57%英57%） 2観点ともに努力が必要な児童が多くみられる。
- 【R3後期】『改善の方策①～⑧』職員自己評価達成率67%。
- 【R3後期】『学力向上に関する学校評価アンケート』達成率：保護者81%、児童80%。
- 主体的・対話的で深い学びを生み出すための授業改善を全校実施。
- 「資質・能力」や「見方・考え方」を意識した授業改善に課題がある。
- 児童の事実をもとに授業改善を図る授業研修会への変更を開始した。

数値目標

- 【R4】『全国学力調査』平均正答率65%以上。弱点項目の向上。下位層20%以内。
- 【R4】『各単元末テスト』平均正答率85%以上。
- 【R4】『CRT検査』平均正答率70%以上。
- 【R4前期】『改善の方策①～⑧』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R4前期】『学力向上に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上

改善の方策

- ①学習指導要領に基づき「目標、観点、見方・考え方、評価」を明確にした授業を行う。**※研修・教務**
 - ★「教員の教科書としての学習指導要領」 ★単元を通した学びの見直し（教師も児童も） ★見方・考え方を意識
- ②「高静小の資質・能力」を意識した教科等横断的指導を日常的に行う。**※研修・教務**
 - ★教育課程（日常授業）への落とし込み ★資質・能力の評価と見直し ★学級経営案や各種計画への反映とPDCA
- ③主体的・対話的で深い学びによる授業改善を行う。**※研修 ★重点**
 - ★学習過程のタイムマネジメント ★学びを見取る目 ★新研修テーマ実践 ★個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ★学びの自己調整力の育成 ★「わからない」が言える子供、学級
- ④「話す・聞く・読む・書く」の基礎・基本を定着させる指導を行う。**※研修・教務**
 - ★全教育活動における重点指導 ★読解力 ★全校朝読書
- ⑤個の特性や学びの状況に応じた個別最適な学びを充実させる。**※子供支援・教務・研修・推進教師**
 - ★放課後等補充学習 ★全ての子が学びやすいUD教育推進 ★合理的配慮 ★習熟度・興味関心別指導充実（方法・体制）
- ⑥ICTを活用した授業を推進する。**※研修・教務・推進教師**
 - ★タブレットを活用した授業推進（主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びのツール）★プログラミング ★オンライン授業対応
- ⑦「高静小の学習ルール」を徹底し、落ち着きとメリハリのある授業を行う。**※教務・指導**
 - ★全学級共通指導 ★毅然とした指導（威圧的な指導ではなく、ぶれない指導）
- ⑧各種調査・テストに数値目標を定め、結果分析を基に課題分野を重点指導する。**※研修・推進教 ★重点**
 - ★課題の共通理解と授業改善の具体化と評価（過去問題活用等） ★全教員の組織的取組（自校採点、結果分析、重点設定）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

方策2 健やかな心身の育成プラン

実態・課題

- 【R3. 11月】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率82%。
- 【R3】『新体力テスト』において「跳躍力」「全身持久力」に課題が見られた。
- 【R3】異学年間の交流をすすめるために「たてわり班活動」を開始した。
- 【R3】高学年の委員会活動全員参加を保障するために、新たな委員会活動が開始した。
- 明るく伸び伸びした児童が多い。また、生徒指導上の大きな問題が少なく落ち着いている。
- 登校しぶり児童への組織的対応が求められている。
- 【R3後期】『改善の方策⑨～⑯』職員自己評価達成率85%。
- 【R3後期】『心身の育成に関する学校評価アンケート』達成率：保護者89%、児童89%。

数値目標

- 【R4】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率100%。
- 【R4】『新体力テスト』において苦手2種目の向上。
- 【R4前期】『改善の方策⑨～⑯』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R4前期】『心身の育成に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上。

改善の方策

⑨カウンセリングマインドにより、すべての子供が安心して生活できる学校をつくる。【※指導】

- ★受容的・共感的な姿勢
- ★「ほっと」の年2回全校取組
- ★あたたかな言葉と表情
- ★体罰や暴言は絶対に許さない

⑩日常的に安全点検、整理整頓、清掃を行い、楽しく気持ちよく過ごせる環境をつくる。【※指導】

- ★毎月の安全点検
- ★清掃活動充実
- ★落書き等を見逃さない
- ★教室、職員室の整理整頓
- ★休み時間共に遊ぶ

⑪健康に気を付け、自他の命を大切にすることを繰り返し指導する。【※指導・教頭・主幹】★重点

- ★交通安全ミニ集会
- ★より具体的で体験的な交通安全指導
- ★「早寝、早起き、朝ごはん」繰り返し指導（生活リズム自己チェック）
- ★食育の充実
- ★コロナウイルス感染予防対策の徹底
- ★避難訓練の工夫（予告なし訓練、津波想定訓練）

⑫教職員が手本を示し、気持ちの良い挨拶、場に応じた言葉遣いを指導する。【※指導】

- ★率先垂範（教職員が手本を示す挨拶、言葉遣い）
- ★児童会の具体的取組

⑬道徳教育の充実により、違いを認め、いじめは許さないことを徹底指導する。【※指導】

- ★いじめ未然防止（いじめは許さないを100%に）
- ★多様性（みんなちがって みんないい）の指導（重点資質・能力）
- ★別業を活用した道徳教育の推進
- ★考え議論する道徳の時間の充実
- ★重点内容項目複数回指導
- ★参観日での授業公開
- ★情報モラル教育充実

⑭異学年等による活動の充実と、全教職員で児童を育てる意識を向上させる。【※指導】

- ★縦割り班活動の充実
- ★高学年全員による委員会活動
- ★学年主任を中心に学年間・異学年間の報連相充実
- ★学級・学年集団活動の充実

⑮特別支援教育、通級教室、登校しぶり等の計画的指導や各種連携体制を充実させる。【※主幹・子供支援】

- ★コーディネーターを中心とした組織的取組
- ★「個別的教育支援計画・指導計画」の前後期PDCAサイクル
- ★通級指導の整備（町教委と連携）
- ★登校しぶり児童への組織対応

★重点

⑯苦手種目の克服など体力向上の日常的取組を充実させる。【※指導】

- ★苦手2種目（跳躍力・全身持久力）の克服に向けた取組徹底
- ★新体力テスト全学年全種目実施と分析

◎各職員が考えたオリジナルプラン

方策3 組織・働き方の改革プラン

実態・課題

- 【R3：4～12月】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内）』達成率61%、平均残業時間31時間5分。
- 残業時間の個人差が大きい。（最大1日あたり3時間以上の差）
- R3分掌業務大幅見直し。コンセプトは「より組織的に、より機能的に、より人材育成的に」。
- 【R3後期】『改善の方策⑰～⑳』職員自己評価達成率81%。

数値目標

- 【R4】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内、年間360時間以内）』達成率100%。
- 【R4】『定時退勤日』を月2回確実に実施。
- 【R4前期】『改善の方策⑰～⑳』職員自己評価達成率80%以上。

改善の方策

- ⑰学校運営方針や子供の情報等を常に共有し、組織的な対応を行う。【※教頭・主幹・指導】
 - ★ヒヤリハット ★組織的生徒指導 ★効率的会議の仕組 ★決めた事の徹底 ★校務運営委員会や学年主任委員会の活用
 - ⑱自分にできることは力を存分に発揮し、できないことは周りの力を借りる。【※全員】
 - ★お互い様精神 ★各自の持ち味 ★効率的な仕事（量より質で） ★困り感の公開・共有と組織対応 ★業務平準化
 - ⑲子供によいと思うことは新たにチャレンジし不要なことは精選する。（安易な前年度踏襲をやめる）【※全員】
 - ★「子供のためになっているか」を判断基準に精選 ★ウィズコロナの視点による教育課程実施や柔軟な対応
 - ⑳互いに声を掛け合い、居心地の良い職員室を一人一人がつくる。【※全員】
 - ★職員間の「あいさつ」「礼儀」 ★学校・組織のために自分は何ができるか（経営参画意識） ★親睦会
 - ㉑メンターとメンティーが共に成長できる研修を充実させる。【※主幹・研修】
 - ★3つのメンター研修 ★初任段階教員育成計画
 - ㉒自分のキャリアステージを見据え、主体的な研修を充実させる。【※研修】★重点
 - ★自己向上意識、プロとして ★授業で勝負できる教師になるために ★研修成果の交流 ★一人最低1回研修会参加
 - ★人事評価シート具体目標とのリンク
 - ㉓学校教育活動の向上につながる学校評価を充実させる。【※校長・教頭・主幹】
 - ★ランドデザインとのリンク ★年2回評価改善 ★オンライン学校評価
 - ㉔法令遵守に努め、社会の常識は、学校の常識として自らの行動で示す。【※全員】
 - ★法令遵守研修 ★服務規律 ★相手意識（電話、来客、服装）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

働き方改革の主な取組 ※別紙『高静小学校働き方改革12』

- ※出退勤時間・日課表の変更 ※定時退勤日（月2回） ※児童玄関開錠時刻（8：00）継続
- ※勤務割り振りの積極的活用 ※勤務時間管理と周知 ※夏冬休みの学校閉庁日設定
- ※年休を取りやすいため会議曜日変更（金曜から木曜へ） ※朝の職員打ち合わせ廃止（週1回放課後へ）
- ※不要な取組見直し（『高静の子』『家庭地域訪問』廃止など） ※校務支援システムの活用
- ※「働き方改革プロジェクトチーム」 ※オンライン出欠確認 ※HP、さくらメールを活用した周知
- ※オンライン学校評価

方策4 開かれた学校の推進プラン

実態・課題

- 【R3後期】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率79%。提出率97%。
- 【R2.12.16】学校運営協議会を設立した。年間3回実施。（経営方針承認、各問題熟議等）
- 【R2】幼稚園保育所との授業参観や懇談などの連携開始。【R3】同様に中学校との連携開始。
- 【R3.2】新しいホームページの運用を開始したが閲覧数が少ない。（1日あたり平均50回）
- 【R3後期】『改善の方策⑳～㉓』職員自己評価達成率78%。
- 【R3前期】『開かれた学校に関する学校評価アンケート（保護者）』達成率94%。

数値目標

- 【R4】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率80%以上。提出率100%。
- 【R4.11月】150周年式典実施（11月19日）
- 【R4】HP閲覧数1日あたり100回以上
- 【R4】学校運営協議会3回開催。熟議や経営方針協議・承認。
- 【R4前期】『改善の方策⑳～㉓』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R4前期】『開かれた学校に関する学校評価アンケート（保護者）』達成率80%以上。

改善の方策

- ㉔PTAおよび地域関係機関、学校運営協議会等との連携を密に行う。【※校長・教頭・主幹・教務】
- ★学校運営協議会との連携（方針承認、地域と共に子供を育成、各種協力依頼など）
 - ★開校150周年式典事業
 - ★PTA等協力依頼と連携（アウトメディア、読書推進、生活リズムなど）
- ㉕学校や学級の考えを通信・ホームページ等で発信し、理解と協力を得る。【※教頭・主幹・各分掌】
- ★相手意識
 - ★魅力あるHPの日常更新
 - ★さくらメール活用
 - ★基本情報の可視化（高静小ガイド保存版パンフレット）
 - ★災害時ガイドラインと引き渡しシステム開始
- ㉖地域と連携した学習活動を推進させる。【※教務】
- ★地域人材や教材の活用
 - ★総合的な学習の時間における「ふるさと教育」の探究的な学びを充実
- ㉗全ての教員が自らの授業を積極的に公開する。（研究授業、各訪問、参観日、その他）【※研修・教務】
- ★全員授業公開
 - ★分散参観日
 - ★管理職授業観察
 - ★公開研究会の実施（11月2日）
 - ★外部助言者活用
- ㉘学校と家庭の学びをつなぐ「家庭学習の質と量」を確保するための手立てを充実させる。【※研修・推進教師】
- ★自ら学習の仕方を振り返る家庭学習システム（学習カード）
 - ★強化週間（提出率アップ）
 - ★ふりかえり宿題デー
- ㉙幼保中や町内他小学校との情報交流を密に行い、それぞれとの連携を深める。【※教頭・主幹・教務】★重点
- ★スタートカリキュラムの活用
 - ★授業参観・実態交流（幼保中）
 - ★中学校区との連携強化（授業改善、生徒指導、家庭学習などに関するブロック研修会）
 - ★キャリアパスポート活用
 - ★学校統合準備
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン